

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム 丹原の郷
(ユニット名)	南町
記入者(管理者)	
氏 名	濱田 寿男
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 26 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 1、入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供します。 2、一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来るように努めます。 3、主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るように援助します。	「前回の目標達成達成計画で取り組んだ事・その結果」 コロナ過で会合や会議・集会が中止になっていたが、令和6年11月より会議等を開催する事ができた。しかし年末・年始にかけてインフルエンザ感染のクラスターになり、家族会が中止になった。インフルエンザ感染の警報が解除されれば地域の防災訓練や運動会・集会に参加したいと思っている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は市郊外の田園地帯に立地しており、事業所の庭や建物の周りには、藤やバラなどの季節の花が植えられ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じることができる。感染症対策のため、地域住民と交流する機会は減っているものの、散歩時には挨拶や会話を交わしたり、サクランボを差し入れてもらったりするなど、できる範囲で交流を図っている。また、外出行事の充実や併設するデイサービスの行事へ参加を検討するなど、利用者に楽しんで生活してもらえるように努めている。長年勤務している職員が多く、お互いをフォローし合う良好な関係性が築けている。家族には月1回、日常生活報告書に利用者の生活状況等を記載して送付するほか、電話連絡する機会を多く設けて意見交換等を行い、家族との信頼関係を築いている。感染症対策を徐々に緩和し、現在は居室内での面会を可能としており、利用者や家族に喜ばれている。事業所は、開設から20年以上経過しているが、清掃や整理整頓が行き届いており、快適に過ごせる空間づくりが行われている。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の会話の中から希望を聞き、職員で話合っている。	◎		○	職員は、日々の生活の中で利用者から希望等を聞き取り、生活記録や申し送りノートに記載して、職員間で情報共有している。利用者の希望に応じて、カレーライスやインスタントラーメンなどを食事に提供することもある。利用者から外食をしたいと希望されることもあるが、感染症対策のため、現在は実施できていない。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立って、意見を出し合う様にしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の電話時に本人の好きな事や、希望・意向を聞き出している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたい物や、やりたい事等日常生活記録に記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起こらないように、職員間で良く話合っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。			◎	管理者等は、入居時に利用者や家族と面談を行い、生活歴や暮らし方等の希望を聞き取っている。また、成年後見人や以前利用していた介護サービス事業所の担当者、介護支援専門員からもサービス利用の経過等の情報を収集している。把握した情報は、アセスメントシートに記入して職員間で共有している。さらに、アセスメントシートは3か月に1回見直しをするほか、新たな情報を把握した際には追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事・できない事シートを活用し、状態が変わればその都度話合っている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活の中での様子を記録し、職員間で引き継ぎ情報共有している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話合っている。必要に応じて、その日の出勤者でも話合っている。			◎	各ユニットで毎月ユニット会を実施し、全ての利用者の課題解決等に向けた話し合いをしている。ユニット会の実施前には、家族や主治医から意見を聞いて、支援に反映している。管理者は、全ユニットのユニット会に参加し、適宜必要な指示やアドバイスをしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ユニット会で職員間で検討している。電話時には主介護者様にも適宜相談している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話合って介護計画を作成している。				介護計画の作成時に、利用者や家族から希望を聞き取っているが、希望が出されることは少ない。毎月のユニット会や3か月に1回のケアカンファレンスの中で、管理者や計画作成担当者、職員が意見を出し合い、利用者本位の介護計画が作成できるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	3か月に1回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で、介護計画を作成している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し身体状況、食事量、水分量、排泄等の記録をして状況に応じている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	コロナ過で会議は出来ていないが、電話で運営推進会議メンバーの方と意見交換をしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを3か月に1度見直している。状態が変わればその都度見直している。	/	/	◎	介護計画やケアカンファレンス記録、モニタリングシートを利用者ごとにファイリングして、職員がいつでも内容を確認できるようにしている。生活記録には、利用者ごとに設定した目標に対する支援状況を記載して、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記載し、介護計画にそって日々の支援を行っている。実行できた事項を確認している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直しを行っている。状態変化がなければ6か月後に作成している。	/	/	◎	介護計画は、利用者の状況等に応じて3か月から6か月に1回見直しをしている。状況に変化がない場合でも、毎月のユニット会の中で全ての利用者の現状を確認して、モニタリングシートに記載している。大きな状況変化が生じた場合には、家族に連絡するとともに、当日の出勤職員や管理者等で話し合って対応し、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りで、一人ひとり利用者の変化等について話合っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をし適宜見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	◎	毎月のユニット会の中で、利用者の課題解決やより良いサービス提供に向けた話し合いをしている。ユニット会は、なるべく多くの職員が参加できるように17時10分からと時間を固定して実施しており、原則夜勤者と遅出職員以外の全職員が参加している。ユニット会に参加できなかった職員には、議事録を確認してもらうほか、管理者から口頭で説明し、確実に情報が伝達できるよう配慮している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	リーダーが中心となり、若い職員や新入社員が委縮しないような雰囲気になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席している。急用等で出席出来なかった職員は、議事録を熟読し内容を把握している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	◎	申し送りノート、ユニット会議事録、生活記録等に記入し、家族と連絡・相談した事等も、職員全体に伝わるようにしている。	◎	/	◎	毎日、朝と夕方に、申し送りノートを活用して申し送りを実施している。申し送りノートには、重要な情報は赤字や赤枠で記載するなど、職員が分かりやすいように工夫をしている。また、職員は出勤時に申し送りノートを確認し、確認後サインをしている。以前は、全ユニットの職員が集まって申し送りをしていたが、現在は感染症対策のため、ユニットごとで申し送りを実施している。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中で、その人の思いをくみ取っている。	/	/	/	職員は、利用者が着る衣服や、やりたいことなどを自己決定できるよう、声かけをしているが、高齢化や重度化のため、選ぶことが難しい利用者も多くなる。職員が買い物に同行して、好みの化粧品を選んでももらったり、家族と馴染みの美容院に出かけたりするなど、利用者の希望を実現できるよう配慮している。また、昔の歌を歌ったり、好きなテレビ番組を見てもらったりするなど、日々の生活を楽しんでもらえるように支援している。見たいテレビ番組が利用者間で分かれた場合には、居室にテレビを置いて見てもらうなどの対応をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	衣服やパジャマ等をどちらがいいか選んでもらっている。家事手伝い等何がしたいか選んでもらっている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きた言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きな事や、出来そうな事を勧めたり、声掛けし、雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者様が、何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。（人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等）	◎	常に、利用者様は人生の先輩だという事をわすれずに、敬いの心を持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	◎	職員は、人権や尊厳をテーマにしたオンライン研修に参加して学んでいる。管理者は、研修に参加した職員に対し研修の感想を聞いたり、必要な助言等を行ったりして職員の理解を深めている。また、基本的に利用者の居室のドアは閉めており、ノックや声かけをしてから居室に入るなど、利用者が居室にいない場合でもプライバシーに配慮している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は、必ず声掛けした後に入室するようにしている。訪室する際は必ずノックしている居室にいない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	会社外に出れば、社内の出来事は話していない。職員にも周知徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等できる事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらった場合は、感謝の気持ちを伝えている。				利用者は、洗濯物畳みを協力しながら行うなど、日常的に助け合いや支え合う場面が見られ、職員もさりげなく支援をしている。言い合いなどのトラブルが起こりそうな場合には、職員が仲介して話を聞いたり、席替えをしたりするなどの対応をしている。席替えを行う際には、利用者が不安等を感じないように丁寧に説明をしている。また、職員は、日々の生活の中で興味のありそうな話題を提供するなど、利用者が孤独感を感じないように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって生きていく事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、職員が媒体になり、馴染めるように配慮している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している。ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等をしてもらっている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているが、昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ過で外出できていないが、年賀状のやりとりや電話で話たりしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出はできていないが、天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。ホームに咲いている季節の花を見て、春夏秋冬を感じてもらっている。	×	△	○	天気の良い日には、車いすの利用者も一緒に事業所周辺を散歩して、外気を感じてもらえるよう支援している。散歩時には、近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、住民宅で菊の花を見せてもらったりするなどの交流を図っている。季節ごとの外出行事については、感染症対策により休止しているが、管理者は「感染症等の状況を踏まえながら、外出行事を再開していきたい」と考えている。利用者家族等アンケート結果では、外出支援の現状が十分に理解されていないところもあるため、運営推進会議や広報誌を活用して状況報告するなど、理解してもらえるような取り組みに期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過の前は、菊の花や季節の花を見に、地域の方の家にも訪問していたが、現在は出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話合ったり、日々の申し送りで伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアをしている。				利用者の心身状況等は、できることできないことシートに記載するとともに、6か月に1回シートの見直しを行い、職員間で共有している。更衣等の日常生活動作は、時間がかかってもなるべく利用者自身にしてみらい、職員は利用者ができない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操、口腔体操を行っている。拒否される方もいるが、気長に声掛けしている。出来ない方は職員が介助している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は、自力でしてもらっている。危険な時は介助している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来る様に支援している。				洗濯物畳みや食材の下ごしらえなど、利用者の得意なことを活かした役割を担ってもらっている。また、歌やぬり絵など、利用者が好きなことをして過ごせるよう支援をしている。利用者が、パンの訪問販売で好きなパンを買ったり、立ち寄った近隣住民と交流をしたりするなど、日常生活の中で楽しみごとがとくれるような取り組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来る事を、日常の会話やふれあいによって、職員が見つけ出し、楽しみを持って生活してもらっている。	◎	◎	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分の選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。				衣服の汚れが見られた時には、職員からさりげなく声かけをし、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。化粧や服装にこだわりのある利用者がおり、職員が同行して好みの化粧品を買いに行くなど、本人らしく過ごせるように支援している。定期的に訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えてもらう利用者や、家族と一緒に馴染みの美容院へ出かける利用者もいる。重度の利用者には、家族に好みの衣服を用意してもらったり、好みの色等を聞いた上で事業所で衣服を購入したりするなどの支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別にヘアブラシを用意している。散髪はホームに来てもらって、好みの髪型にされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	起床後には、一緒に鏡を見ながら、髪型を整えたりその人らしくいられる様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	利用者様のブライドを大切に、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにてボランティア（有償）の方に、散髪してもらっている。本人・家族もそれを望んでいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装に気をつけている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。				昼食の副食のみ、外部の業者に調理等を委託し、事業所に届いたパウチを湯煎して利用者に提供している。朝食と夕食は、職員が調理や炊飯、盛り付けをし、利用者には、食材の下ごしらえや台拭きなどを手伝ってもらっている。献立は、利用者から希望を聞きながら、ユニット会を活用して、献立や食事形態等を職員間で話し合っている。菜の花や筍等の旬の食材を取り入れて、利用者に季節を感じてもらえるように工夫し、アレルギーや苦手な食材は入居時に確認し、代替食を提供するようにしている。食材の買い出しは、週2回職員が行うほか、米やじゃがいも、玉ねぎ、調味料は地域の業者に配達してもらっている。また、茶碗や箸等は、使い慣れたものを持参してもらっているが、必要に応じて事業所で用意した使いやすいものを使用している。食事介助が必要な利用者が半数程度いるため、職員は、見守りや介助に専念しており、利用者と別々に食事をしている。食事の時間には、重度の利用者もリビングに出て、調理の様子や音、匂いなどを感じてもらうことができおり、食事中は、優しい曲調の音楽をかけるなど、利用者がゆったりと食事できるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにに行っている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしてもらっている。中には出来ない人もいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	声掛けにて、盛り付け等は一部の利用者様にしてもらっており。残存能力維持・達成感に繋げている。中には出来なくなっている人もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	牛乳やコーヒーが苦手なご利用者様には、ジュースや別の飲み物を提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬の物を取り入れ、季節感を味わっていただき、利用者様も喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等）	○	利用者様の状態や体調により、刻みやミキサー食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器にしたり、工夫して盛り付けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ち込みで、使い慣れた物を使用している。床に落として危険な方は、プラスチック製の食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と会話を楽しみながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等は、さりげなくサポートしている。コロナウイルス感染予防の為、一緒には食べていない。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて、皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚が刺激され、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量、しっかりと確保できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には介助にて摂取してもらっている。摂取量に合わせ、高カロリー食品や飲料を摂取してもらっている、利用者様もいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合い、その都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気を付けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者様、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。				口腔ケアは毎食後に実施しており、職員は全ての利用者の口腔内の健康状態を確認している。義歯は、職員が預かって洗浄している。口腔内に異常が見られた場合には、医師に相談した上で、利用者や家族が希望する近隣の歯科医院を受診している。歯科医院を受診する際、家族の送迎が難しい場合には、職員が同行支援をしている。また、職員は口腔ケアのオンライン研修に参加しており、口腔ケアの重要性等を学んでいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も、口腔ケア時に確認している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に、義歯の洗浄の仕方についてや口腔ケアの仕方について教えていただいている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る方は自分でしてもらっている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	◎	自力で出来る方は自分でしている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄が出来る様に支援している。				事業所では、利用者がトイレで排泄することを基本に支援している。利用者の排泄状況は、排泄チェック表に記録しており、利用者ごとの排泄パターンに応じてトイレ誘導等をしており、現在2名の利用者が布パンツで過ごすことができています。紙おむつを使用する利用者にも、トイレで排泄できるよう支援していたが、座位保持が困難になったため、現在はベッド上でおむつ交換をしている。利用者が身体状況等に合った適切な排泄用品が使用できるようユニット会の中で話し合うほか、必要に応じておむつの取扱業者にも相談している。現在、全利用者のうち半数以上が下剤を服用しているが、食物繊維の多い食材を食事に取り入れたり、ヨーグルトなどの乳製品の摂取を促したりするなど、なるべく服薬に頼らずに便秘が解消できるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘による様々な弊害を理解し、廊下歩行や散歩・体操をさせる。出ない場合は緩下剤を服用している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握して、変化があれば、ユニット会で議題に上げて、検討・見直しを常に行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、職員間で情報を共有し、その都度、看護師も交えて検討し、対策を実施している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は、声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様は、自分で選択してもらっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	利用者様の状態に合った、紙オムツ・紙パンツ・パッドを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	◎	朝食時のヨーグルトバナナ・スタミン等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行、手足の体操の運動にも取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	高齢で体力的に毎日入れない方は、2～3日に1回の方もいる。湯舟を跨げない方や転倒の危険性のある方はシャワー浴している。	◎		○	利用者は、週2回午後に入浴することができる。湯船に浸かる時間や湯の温度は、可能な限り利用者の希望に合わせるようにしているが、身体状況等を考慮しながら、必要に応じて主治医に相談して助言を得ている。身体機能が低下し、浴槽を跨ぐことが難しい利用者には、家族に相談した上で、シャワー浴を実施して清潔保持に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、家族の事を話したり、談笑されながら入浴している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りの入浴動作の自立を促している。湯舟を跨げない方や転倒の危険性がある方はシャワー浴している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫する事で入浴出来ている。必要に応じて、男女職員を交代し、羞恥心に配慮している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に気を配っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを観てから入室される方もいるし、個々の睡眠パターンを把握している。				半数程度の利用者は眠剤を服用しているが、散歩やレクリエーションで日中の活動量を増やすなど、なるべく服薬に頼らずに夜間良眠できるよう支援している。夜間眠れなくなった利用者には、リビングで職員と話をしたり、ホットミルクを提供して一緒にテレビを見たりして、眠たくなったところに居室へ誘導するなどの対応をしている。不眠が続くなどがあれば、医師に相談し、指示や助言を受けることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、日中の居室での仮眠時間を減らしたり等して、夜間の睡眠が取れる様に支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	外気浴に行ったり、工作、塗り絵、手足の体操をしたり、できるだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。一人でいたい方は廊下のソファーに座られている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。持っていない方は電話を取りつぎ談話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、音信がとれる様に支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、良く話されている。家族様からもよく、電話や手紙や季節の絵を描かれたハガキが届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ過で外出していない。買い物も行けていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度、本人様・家族様と相談し、意向に添った支援に努めている。病院の受診介助等、柔軟に対応してる。	◎		○	通院介助を事業所に対応するほか、好みの衣服や化粧品の買い物に同行するなど、利用者や家族から出された要望には可能な範囲で柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に、春夏秋冬の色とりどりの草花いつでも見に来ていただける様にしているが、コロナ過で現在は出入りはしていない。	◎	◎	◎	玄関前や建物周辺には、季節の花が色とりどりに植えられ、職員が草引きなどの世話をしており、明るく気軽に入りやすい雰囲気を感じられる。バラのアーチや藤棚もあり、コロナ禍前には地域住民が見学に来ることもあった。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	◎	リビングの壁には、季節ごとの切り絵や飾りを飾っている。花を生けたり、廊下には、お誕生日会や季節の行事の写真を張っている。居室には送付されてきた、家族やお孫さんの写真を飾ったりしている。	◎	◎	◎	玄関には、季節の花の鉢植えや利用者の手作りの作品が飾られているほか、いすが3つ置かれており、利用者や来訪者が座って休憩できるようにしている。リビングの壁面には、職員と一緒に作成した梅やひな祭りの飾りつけがされており、利用者が季節を感じながら生活できるように工夫している。広々とした廊下には、ソファが置かれていたり、リビングに小上がりの置スペースを設置したりするなど、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。建物内は、清掃や整理整頓が行き届いており、快適に過ごせる環境づくりが行われている。また、建物内の清潔を保つため、職員で構成された環境委員によって、定期的に建物内の清掃状況等を確認している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に、細目に掃除をしている。また、カーペット交換やカーテン交換も実施している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等、出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜や果物にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や、利用者様の様子を見ながら、その都度工夫し対応している。廊下にソファを置き、一人で静かに過ごせる場所も作っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた、家具や小物を持ち込んでいる方もいる。家族からの写真や絵はがきを飾ったり、自分好みにされている。	◎		○	居室には、ベッドや布団、エアコンが備え付けられている。ベッドなどの家具は、利用者が過ごしやすように配置するほか、職員を呼べるようにタンバリンを置く居室もあるなど、利用者の身体状況等に合わせた環境を整えている。また、馴染みのものを持ち込むことも可能で、衣装ケースや家族写真、書道の作品を飾るなど、居心地のよい空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには、日めくりカレンダーを作り、利用者様がめくれる様にしている。自室には、表札を作っている。トイレや浴室も分かりやすい様に表示している。			○	居室のドアには、手すき和紙で手作りした表札があるほか、トイレや浴室前にも、利用者が書道で書いた表示をかけるなど、利用者が場所を認識しやすいように工夫している。居室内の衣装ケースの引き出しには、ズボンや下着等のラベルを貼って、利用者自身で衣服を取り出せるように配慮している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	テーブル上やカウンターに、季節の花を生けたり、壁には、季節の張り絵等を毎月飾っている。読書が好きな方は、園芸や好みの本、新聞をいつでも読める様に置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は、オンラインの勉強会へ定期的に参加し、鍵を掛けることの弊害を理解している。玄関は、日中施錠せず、防犯のため17時30分から6時30分まで施錠している。居室の窓は転落防止のため、夜間のみ20cm程度までしか開かないようにしている。外出願望のある利用者には、職員が付き添って事業所周辺を散歩するなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族もいない。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでもすぐ確認が出来る様にしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は、生活記録に残している。職員にも引き継いでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係を築いている日中は兼務の看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望する、かかりつけ医や医療機関で受診ができる様に支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月1回、連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続希望される場合、ご家族様が受診介助出来ない場合は、職員がお連れしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は、結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は、受診前後に、ご家族様に連絡・報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や、介護状態について、看護要約サマリーを作成し、病院に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携を密にして、情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月3回当ホームに、西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時に主治医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	◎	個人カルテを作成し、服用している薬の説明分を読み理解している。また、生活記録に残し、家族・主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時、職員2人で声を出しダブルチェックしている。服用後も飲ませ忘れがないか、薬箱のチェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や、日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと、連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時で最善の方針を共有している。				状態が悪化した場合には病院を受診し、利用者や家族、医師、管理者を交えて話し合い、今後の方針を決定している。話し合った内容は、管理者から職員に伝達して共有している。事業所での看取りを希望する利用者や家族が多い。事業所では医師や看護師、管理者といつでも連絡がとれる体制が整っており、利用者や家族、職員の安心感につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時で最善の方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者・職員交えて、等ホームでどこまで支援が出来るか話合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来る事、出来ない事については、その時・その時で説明し、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に、連携病院の主治医等と連携して、チームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しい様であれば、住み替えの提案も相談の上していく。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いの期限等も出来る限り考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で、随時学んでいる。コロナ過で研修会や講習会には参加できていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会で繰り返し手順を確認している。発生した時に、すみやかに処理出来るように、道具一式を揃えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市報やインターネットを通じて、最新情報を入手している。グループ内の市民病院の患者発生情報等も、情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時等、外に出た時は必ず手洗い・消毒体温測定・うがいをしている。来客者にもアルコール消毒・体温測定してもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ過で面会は出来ていないが、月1回に日常生活報告書にて報告している。また電話時に利用者様と変わり会話してもらっている。				感染症対策のため、家族が参加できる行事の実施はできていないが、管理者は、「感染症等の状況を踏まえながら、家族が参加できる花見等の行事を実施していきたい」と考えている。運営推進会議は、集合形式で実施しており、行事や運営上の事について参加メンバーに報告したり、参加した家族同士の交流が図られたりしている。また、月1回日常生活報告書に、食事や入浴、排泄、健康状態等を記載して家族に送付し、利用者の生活の様子等を知らせている。さらに、利用者ごとの担当職員が異動する場合には、家族へ電話連絡して伝えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ過で、外出・外食・面会等が出来ていない。リモート面会は実施している。	△		○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という情報誌を、年4回発行しており、行行事に参加した様子を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き、日常の様子・体調等について報告している。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	コロナ過で面会は出来ていないが、電話で家族様と話しをし、認知症への理解を得られる様になっている。出来ていた事が、出来なくなったり難しくなってきた事も逐一報告している。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	コロナ過で運営推進会議もできていないが、資料送付をして理解・協力を得られる様にしている。	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	利用者様、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明している。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リモート面会時や、電話での会話で明るく感じの良い話し方を心がけている。ご家族様の趣味の事をお聞きしたり、話やすい雰囲気を作っている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に、契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて、具体的に説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、家族様と相談し、納得していただいている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。		◎		法人・事業所として自治会には加入していないが、自治会員に向けて定期的に広報誌を送付している。野菜や乳製品は、地域の業者から配達してもらうほか、近隣の美容院を利用するなど、地域とのつながりが継続できるよう努めている。管理者は「感染症等の状況を踏まえながら、地域住民に事業所で生育しているバラや藤棚を見に来てもらったり、ボランティアの受け入れなどを行っていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が、地域にも浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてくれている。				
		d	地域の人気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の薔薇や藤見学を再開したい。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の薔薇や藤見学を再開したい。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で、ボランティアの訪問も中止しているが、コロナが収束すれば、ボランティアの歌謡ショーや日本舞踊、楽器演奏のショーを再開する予定にしている。訪問はないが、飾りや小物は送られている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ過で、訪問等は中止にしているが、収束すれば消防署来訪の心肺蘇生法講習や火災・地震対策予防講習等を再開する予定である。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブ、民生委員等の参加を得て、集合形式で実施している。全ての家族に案内文書を送付しているが、3名程度の参加に留まっている。会議では、事業所のサービスの実際や外部評価の取り組み状況等の報告、参加メンバーとの意見交換等を行っている。議事録は全ての家族に送付するとともに、玄関内に置いて来訪者が読めるようにしている。今後は、会議に参加できない家族に対して事前に意見等を聞き取ったり、会議の意義や目的を説明する機会を設けたりするなど、より多くの家族の参加を得て、収集した意見をより良い事業所運営につなげられるよう職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後は、資料を運営推進会議にて開示している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷の、運営理念を作成し、職員に周知し理念に基づいたケアに取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	コロナ過で、訪問を中止している。また、運営推進会議も行えていないが、収束すれば、面会時や会議時に以前の様に伝える予定。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	代表者は、事業所に来訪し管理者と意見交換や情報共有をしている。また、法人で実施される管理職会の中で、職員の意見等は管理者から代表者に伝えることができています。コロナ禍前には、定期的に食事会やスポーツ大会を実施して、職員同士の交流を図っていたが、現在は感染症対策のため休止している。休みが取りやすい体制を整えたり、資格取得の助成を行うなど、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。職員への聞き取りでは「子育てと仕事が両立できるよう休みなどを考慮してもらっている」と話を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	出来る限り、希望に添える勤務にしている。夜勤や遅出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ過で、訪問したりされたりが、出来ない状態になっているが、社内での管理職会・施設長会・主任副主任会等で、情報交換している。収束すれば、積極的に講習・研修会等に参加させたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	コロナ過で、親睦会やスポーツ大会等は出来ていないが、面接を行い希望や要望を聞いている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	コロナ過で、外部の講習や研修会には参加できていないが、ユニット会で身体拘束や虐待防止について、勉強している。また、各自が文献やインターネットで検索し勉強し理解している。	/	/	○	3か月に1回、虐待防止をテーマにした勉強会を実施して、職員の理解を深めている。不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合ったり、管理者から注意喚起をしたりして、該当職員の気づきを促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りをしている。日々の体調やケアについて話し合いふりかえっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラについての調査をしている。日常でも、社員の態度や表情も観察している。事務所で個別に談話する事もある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在では、そのような要望はないが、今後あっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら、理解を図っていく。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	ユニット会の勉強会で理解を深めている。家族の状況を踏まえ、情報提供や相談にのっている。ご家族様が遠方の方等は、代理で市役所へ書類手続きに行った事もある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	◎	家族様の兄弟間で、司法書士が間に入っている方もいるので、いつでも連絡出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員に通知しているが、新しい職員はまだ完全に把握しきれていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	コロナ過で、消防訓練は年2回行っているが、心肺蘇生法、AED取り扱い講習は、感染予防の為、出来ていない。文献やインターネット等で学習はしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度、職員で話し合い、対応方法や注意する点を申し送り、事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間常に連絡が取れる体制に、連絡があれば、迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの、問い合わせや要望があれば、管理者に報告相談し、対応している。転倒し入院等になれば市の長寿介護課に、文書で報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情は4年程ないが、問い合わせや要望は、管理者が職員と話し合い答えている。疑問や質問にたいしても、細かく答えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、事務所で1対1でゆっくりとお話を聞いている。	◎		◎	利用者には、日々の生活の中で、意見等を聞き取っている。家族には、管理者から面会等の来訪時に声かけをするなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会に来られない家族には、月1回程度は電話連絡をして利用者の様子を伝えたり、意見交換をしたりしている。また、管理者は年2回、職員との個別面談を実施して、意見や提案を聞き、利用者への支援等に反映している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、電話時にゆっくりとお話を聞いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝、各ユニットの利用者様に、挨拶廻りしており、その際に、職員の意見や要望も聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に2回、面接を行っている。その他にも、普段から職員の話聞く、機会を持っており、利用者様の為にどうすべきか、話合っている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の対象でない年も、管理者・職員で自己評価に取り組み、書類として残している。				前回の外部評価の評価結果等は、書面開催した運営推進会議の資料の中で家族等に報告している。現在、会議が集合形式で実施できるようになったため、今回の外部評価の受審後には、会議の中で評価結果や目標達成計画、目標の達成状況等を報告し、意見を収集できるように職員間で検討することを期待したい。
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、管理者・職員で話し合い、目標達成計画を作成し、ユニット会で職員に周知し、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで、様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。				事業所では年2回、夜間や日中を想定した避難訓練を実施して災害に備えている。今後は、地域の消防署の協力を得て訓練を実施し、必要な助言等を受けたり、地域で行われる訓練に参加協力したりするなど、災害支援体制の強化に向けて職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間の時間帯を想定し、訓練しているが、2人体制・1人体制での訓練は出来ていない。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備・消火器の点検は、専門業者に依頼、規定どおり点検している。パンや水等も消費期限までに、点検交換している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ過で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	△	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ過で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ過で、会合はできないが、広報誌「あたご」を発行している。介護相談員や老人クラブ会長、民生委員に広報誌を郵送している。				地域住民等からの入居相談があった際には、快く対応している。以前は、中学生の体験学習を受け入れていたが、現在は感染症対策のため休止している。今後は、感染症等の状況を踏まえながら、体験学習の受け入れを再開したり、地域行事への参加協力を通して認知症の啓発活動を実施したりするなど、地域のケア拠点としての活動に向けて職員間で検討することを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	コロナ過で、見学は出来ないが、事務所でパソコンで施設紹介している。また入居相談も受けている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ過で、施設内訪問は中止している。また、訪問も感染予防の為、出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ過で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開予定				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ過で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開また、地域のイベントにも参加したい。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム 丹原の郷
(ユニット名)	北町
記入者(管理者)	
氏 名	濱田 寿男
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 26 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 1、入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供します。 2、一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来るように努めます。 3、主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るように援助します。	「前回の目標達成達成計画で取り組んだ事・その結果」 コロナ過で会合や会議・集会が中止になっていたが、令和6年11月より会議等を開催する事が出来るようになった。しかし年末・年始にかけてインフルエンザ感染のクラスターになり、家族会が中止になった。インフルエンザ感染の警報が解除されれば、地域の防災訓練や運動会・集会に参加したいと思っている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は市郊外の田園地帯に立地しており、事業所の庭や建物の周りには、藤やバラなどの季節の花が植えられ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じることができる。感染症対策のため、地域住民と交流する機会は減っているものの、散歩時には挨拶や会話を交わしたり、サクランボを差し入れてもらったりするなど、できる範囲で交流を図っている。また、外出行事の充実や併設するデイサービスの行事へ参加を検討するなど、利用者に楽しんで生活してもらえるように努めている。長年勤務している職員が多く、お互いをフォローし合う良好な関係性が築けている。家族には月1回、日常生活報告書に利用者の生活状況等を記載して送付するほか、電話連絡する機会を多く設けて意見交換等を行い、家族との信頼関係を築いている。感染症対策を徐々に緩和し、現在は居室内での面会を可能としており、利用者や家族に喜ばれている。事業所は、開設から20年以上経過しているが、清掃や整理整頓が行き届いており、快適に過ごせる空間づくりが行われている。
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の会話の中から希望を聞き、職員で話合っている。	◎		○	職員は、日々の生活の中で利用者から希望等を聞き取り、生活記録や申し送りノートに記載して、職員間で情報共有している。利用者の希望に応じて、カレーライスやインスタントラーメンなどを食事に提供することもある。利用者から外食をしたいと希望されることもあるが、感染症対策のため、現在は実施できていない。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立って、意見を出し合う様にしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の電話時に本人の好きな事や、希望・意向を聞き出している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたい物や、やりたい事等日常生活記録に記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起こらないように、職員間で良く話合っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。			◎	管理者等は、入居時に利用者や家族と面談を行い、生活歴や暮らし方等の希望を聞き取っている。また、成年後見人や以前利用していた介護サービス事業所の担当者、介護支援専門員からもサービス利用の経過等の情報を収集している。把握した情報は、アセスメントシートに記入して職員間で共有している。さらに、アセスメントシートは3か月に1回見直しをするほか、新たな情報を把握した際には追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事・できない事シートを活用し、状態が変わればその都度話合っている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活の中での様子を記録し、職員間で引き継ぎ情報共有している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話合っている。必要に応じて、その日の出勤者でも話合っている。			◎	各ユニットで毎月ユニット会を実施し、全ての利用者の課題解決等に向けた話し合いをしている。ユニット会の実施前には、家族や主治医から意見を聞いて、支援に反映している。管理者は、全ユニットのユニット会に参加し、適宜必要な指示やアドバイスをしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ユニット会で職員間で検討している。電話時には主介護者様にも適宜相談している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話合って介護計画を作成している。				介護計画の作成時に、利用者や家族から希望を聞き取っているが、希望が出されることは少ない。毎月のユニット会や3か月に1回のケアカンファレンスの中で、管理者や計画作成担当者、職員が意見を出し合い、利用者本位の介護計画が作成できるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	3か月に1回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で、介護計画を作成している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し身体状況、食事量、水分量、排泄等の記録をして状況に応じている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	コロナ過で会議は出来ていないが、電話で運営推進会議メンバーの方と意見交換をしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを3か月に1度見直している。状態が変わればその都度見直している。	/	/	◎	介護計画やケアカンファレンス記録、モニタリングシートを利用者ごとにファイリングして、職員がいつでも内容を確認できるようにしている。生活記録には、利用者ごとに設定した目標に対する支援状況を記載して、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記載し、介護計画にそって日々の支援を行っている。実行できた事項を確認している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直しを行っている。状態変化がなければ6か月後に作成している。	/	/	◎	介護計画は、利用者の状況等に応じて3か月から6か月に1回見直しをしている。状況に変化がない場合でも、毎月のユニット会の中で全ての利用者の現状を確認して、モニタリングシートに記載している。大きな状況変化が生じた場合には、家族に連絡するとともに、当日の出勤職員や管理者等で話し合って対応し、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りで、一人ひとり利用者の変化等について話合っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をし適宜見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	◎	毎月のユニット会の中で、利用者の課題解決やより良いサービス提供に向けた話し合いをしている。ユニット会は、なるべく多くの職員が参加できるように17時10分からと時間を固定して実施しており、原則夜勤者と遅出職員以外の全職員が参加している。ユニット会に参加できなかった職員には、議事録を確認してもらうほか、管理者から口頭で説明し、確実に情報が伝達できるよう配慮している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	リーダーが中心となり、若い職員や新入社員が委縮しやすいような雰囲気になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席している。急用等で出席出来なかった職員は、議事録を熟読し内容を把握している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	◎	申し送りノート、ユニット会議事録、生活記録等に記入し、家族と連絡・相談した事等も、職員全体に伝わるようにしている。	◎	/	◎	毎日、朝と夕方に、申し送りノートを活用して申し送りを実施している。申し送りノートには、重要な情報は赤字や赤枠で記載するなど、職員が分かりやすいように工夫をしている。また、職員は出勤時に申し送りノートを確認し、確認後サインをしている。以前は、全ユニットの職員が集まって申し送りをしていたが、現在は感染症対策のため、ユニットごとで申し送りを実施している。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中で、その人の思いをくみ取っている。	/	/	/	職員は、利用者が着る衣服や、やりたいことなどを自己決定できるよう、声かけをしているが、高齢化や重度化のため、選ぶことが難しい利用者も多くなる。職員が買い物に同行して、好みの化粧品を選んでももらったり、家族と馴染みの美容院に出かけたりするなど、利用者の希望を実現できるよう配慮している。また、昔の歌を歌ったり、好きなテレビ番組を見てもらったりするなど、日々の生活を楽しんでもらえるように支援している。見たいテレビ番組が利用者間で分かれた場合には、居室にテレビを置いて見てもらうなどの対応をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	衣服やパジャマ等をどちらがいいか選んでもらっている。家事手伝い等何がしたいか選んでもらっている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きな事や、出来そうな事を勧めたり、声掛けし、雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者様が、何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。（人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等）	◎	常に、利用者様は人生の先輩だという事をわすれずに、敬いの心を持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	◎	職員は、人権や尊厳をテーマにしたオンライン研修に参加して学んでいる。管理者は、研修に参加した職員に対し研修の感想を聞いたり、必要な助言等を行ったりして職員の理解を深めている。また、基本的に利用者の居室のドアは閉めており、ノックや声かけをしてから居室に入るなど、利用者が居室にいない場合でもプライバシーに配慮している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は、必ず声掛けした後に入室するようにしている。訪室する際は必ずノックしている居室にいない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	会社外に出れば、社内の出来事は話していない。職員にも周知徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等できる事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらった場合は、感謝の気持ちを伝えている。				利用者は、洗濯物畳みを協力しながら行うなど、日常的に助け合いや支え合う場面が見られ、職員もさりげなく支援をしている。言い合いなどのトラブルが起こりそうな場合には、職員が仲介して話を聞いたり、席替えをしたりするなどの対応をしている。席替えを行う際には、利用者が不安等を感じないように丁寧に説明をしている。また、職員は、日々の生活の中で興味のありそうな話題を提供するなど、利用者が孤独感を感じないように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって生きていく事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、職員が媒体になり、馴染めるように配慮している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している。ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等をしてもらっている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているが、昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ過で外出できていないが、年賀状のやりとりや電話で話たりしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出はできていないが、天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。ホームに咲いている季節の花を見て、春夏秋冬を感じてもらっている。	×	△	○	天気の良い日には、車いすの利用者も一緒に事業所周辺を散歩して、外気を感じてもらえるよう支援している。散歩時には、近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、住民宅で菊の花を見せてもらったりするなどの交流を図っている。季節ごとの外出行事については、感染症対策により休止しているが、管理者は「感染症等の状況を踏まえながら、外出行事を再開していきたい」と考えている。利用者家族等アンケート結果では、外出支援の現状が十分に理解されていないところもあるため、運営推進会議や広報誌を活用して状況報告するなど、理解してもらえるような取り組みに期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過の前は、菊の花や季節の花を見に、地域の方の家にも訪問していたが、現在は出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話合ったり、日々の申し送りで伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアをしている。				利用者の心身状況等は、できることできないことシートに記載するとともに、6か月に1回シートの見直しを行い、職員間で共有している。更衣等の日常生活動作は、時間がかかってもなるべく利用者自身にしてみらい、職員は利用者ができない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操、口腔体操を行っている。拒否される方もいるが、気長に声掛けしている。出来ない方は職員が介助している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は、自力でしてもらっている。危険な時は介助している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来る様に支援している。				洗濯物畳みや食材の下ごしらえなど、利用者の得意なことを活かした役割を担ってもらっている。また、歌やぬり絵など、利用者が好きなことをして過ごせるよう支援をしている。利用者が、パンの訪問販売で好きなパンを買ったり、立ち寄った近隣住民と交流をしたりするなど、日常生活の中で楽しみごとがとくれるような取り組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来る事を、日常の会話やふれあいによって、職員が見つけ出し、楽しみを持って生活してもらっている。	◎	◎	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分の選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。				衣服の汚れが見られた時には、職員からさりげなく声かけをし、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。化粧や服装にこだわりのある利用者がおり、職員が同行して好みの化粧品を買いに行くなど、本人らしく過ごせるように支援している。定期的に訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えてもらう利用者や、家族と一緒に馴染みの美容院へ出かける利用者もいる。重度の利用者には、家族に好みの衣服を用意してもらったり、好みの色等を聞いた上で事業所で衣服を購入したりするなどの支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別にヘアブラシを用意している。散髪はホームに来てもらって、好みの髪型にされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	起床後には、一緒に鏡を見ながら、髪型を整えたりその人らしくいられる様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	利用者様のブライドを大切にし、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにてボランティア（有償）の方に、散髪してもらっている。本人・家族もそれを望んでいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装に気をつけている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。				昼食の副食のみ、外部の業者に調理等を委託し、事業所に届いたパウチを湯煎して利用者に提供している。朝食と夕食は、職員が調理や炊飯、盛り付けをし、利用者には、食材の下ごしらえや台拭きなどを手伝ってもらっている。献立は、利用者から希望を聞きながら、ユニット会を活用して、献立や食事形態等を職員間で話し合っている。菜の花や筍等の旬の食材を取り入れて、利用者に季節を感じてもらえるように工夫し、アレルギーや苦手な食材は入居時に確認し、代替食を提供するようにしている。食材の買い出しは、週2回職員が行うほか、米やじゃがいも、玉ねぎ、調味料は地域の業者に配達してもらっている。また、茶碗や箸等は、使い慣れたものを持参してもらっているが、必要に応じて事業所で用意した使いやすいものを使用している。食事介助が必要な利用者が半数程度いるため、職員は、見守りや介助に専念しており、利用者と別々に食事をしている。食事の時間には、重度の利用者もリビングに出て、調理の様子や音、匂いなどを感じてもらうことができおり、食事中は、優しい曲調の音楽をかけるなど、利用者がゆったりと食事できるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにに行っている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしてもらっている。中には出来ない人もいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	声掛けにて、盛り付け等は一部の利用者様にしてもらっており。残存能力維持・達成感に繋げている。中には出来なくなっている人もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	牛乳やコーヒーが苦手なご利用者様には、ジュースや別の飲み物を提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬の物を取り入れ、季節感を味わっていただき、利用者様も喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等）	○	利用者様の状態や体調により、刻みやミキサー食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器にしたり、工夫して盛り付けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ち込みで、使い慣れた物を使用している。床に落として危険な方は、プラスチック製の食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と会話を楽しみながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等は、さりげなくサポートしている。コロナウイルス感染予防の為、一緒には食べていない。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて、皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚が刺激され、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量、しっかりと確保できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には介助にて摂取してもらっている。摂取量に合わせ、高カロリー食品や飲料を摂取してもらっている、利用者様もいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合い、その都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気を付けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者様、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。				口腔ケアは毎食後に実施しており、職員は全ての利用者の口腔内の健康状態を確認している。義歯は、職員が預かって洗浄している。口腔内に異常が見られた場合には、医師に相談した上で、利用者や家族が希望する近隣の歯科医院を受診している。歯科医院を受診する際、家族の送迎が難しい場合には、職員が同行支援をしている。また、職員は口腔ケアのオンライン研修に参加しており、口腔ケアの重要性等を学んでいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も、口腔ケア時に確認している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に、義歯の洗浄の仕方についてや口腔ケアの仕方について教えていただいている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る方は自分でしてもらっている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	◎	自力で出来る方は自分でしている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄が出来る様に支援している。				事業所では、利用者がトイレで排泄することを基本に支援している。利用者の排泄状況は、排泄チェック表に記録しており、利用者ごとの排泄パターンに応じてトイレ誘導等をしており、現在2名の利用者が布パンツで過ごすことができています。紙おむつを使用する利用者にも、トイレで排泄できるよう支援していたが、座位保持が困難になったため、現在はベッド上でおむつ交換をしている。利用者が身体状況等に合った適切な排泄用品が使用できるようユニット会の中で話し合うほか、必要に応じておむつの取扱業者にも相談している。現在、全利用者のうち半数以上が下剤を服用しているが、食物繊維の多い食材を食事に取り入れたり、ヨーグルトなどの乳製品の摂取を促したりするなど、なるべく服薬に頼らずに便秘が解消できるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘による様々な弊害を理解し、廊下歩行や散歩・体操をさせる。出ない場合は緩下剤を服用している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握して、変化があれば、ユニット会で議題に上げて、検討・見直しを常に行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、職員間で情報を共有し、その都度、看護師も交えて検討し、対策を実施している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は、声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様は、自分で選択してもらっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	利用者様の状態に合った、紙オムツ・紙パンツ・パッドを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	◎	朝食時のヨーグルトバナナ・スタミン等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行、手足の体操の運動にも取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	高齢で体力的に毎日入れない方は、2～3日に1回の方もいる。湯舟を跨げない方や転倒の危険性のある方はシャワー浴している。	◎		○	利用者は、週2回午後に入浴することができる。湯船に浸かる時間や湯の温度は、可能な限り利用者の希望に合わせるようにしているが、身体状況等を考慮しながら、必要に応じて主治医に相談して助言を得ている。身体機能が低下し、浴槽を跨ぐことが難しい利用者には、家族に相談した上で、シャワー浴を実施して清潔保持に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、家族の事を話したり、談笑されながら入浴している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りの入浴動作の自立を促している。湯舟を跨げない方や転倒の危険性がある方はシャワー浴している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫する事で入浴出来ている。必要に応じて、男女職員を交代し、羞恥心に配慮している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に気を配っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを観てから入室される方もいるし、個々の睡眠パターンを把握している。				半数程度の利用者は眠剤を服用しているが、散歩やレクリエーションで日中の活動量を増やすなど、なるべく服薬に頼らずに夜間良眠できるよう支援している。夜間眠れなくなった利用者には、リビングで職員と話をしたり、ホットミルクを提供して一緒にテレビを見たりして、眠たくなったところに居室へ誘導するなどの対応をしている。不眠が続くなどがあれば、医師に相談し、指示や助言を受けることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、日中の居室での仮眠時間を減らしたり等して、夜間の睡眠が取れる様に支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	外気浴に行ったり、工作、塗り絵、手足の体操をしたり、できるだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。一人でいたい方は廊下のソファーに座られている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。持っていない方は電話を取りつぎ談話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、音信がとれる様に支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、良く話されている。家族様からもよく、電話や手紙や季節の絵を描かれたハガキが届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ過で外出していない。買い物も行けていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度、本人様・家族様と相談し、意向に添った支援に努めている。病院の受診介助等、柔軟に対応してる。	◎		○	通院介助を事業所に対応するほか、好みの衣服や化粧品の買い物に同行するなど、利用者や家族から出された要望には可能な範囲で柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に、春夏秋冬の色とりどりの草花いつでも見に来ていただける様にしているが、コロナ過で現在は出入りはしていない。	◎	◎	◎	玄関前や建物周辺には、季節の花が色とりどりに植えられ、職員が草引きなどの世話をしており、明るく気軽に入りやすい雰囲気を感じられる。バラのアーチや藤棚もあり、コロナ禍前には地域住民が見学に来ることもあった。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	◎	リビングの壁には、季節ごとの切り絵や飾りを飾っている。花を生けたり、廊下には、お誕生日会や季節の行事の写真を張っている。居室には送付されてきた、家族やお孫さんの写真を飾ったりしている。	◎	◎	◎	玄関には、季節の花の鉢植えや利用者の手作りの作品が飾られているほか、いすが3つ置かれており、利用者や来訪者が座って休憩できるようにしている。リビングの壁面には、職員と一緒に作成した梅やひな祭りの飾りつけがされており、利用者が季節を感じながら生活できるように工夫している。広々とした廊下には、ソファが置かれていたり、リビングに小上がりの置スペースを設置したりするなど、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。建物内は、清掃や整理整頓が行き届いており、快適に過ごせる環境づくりが行われている。また、建物内の清潔を保つため、職員で構成された環境委員によって、定期的に建物内の清掃状況等を確認している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に、細目に掃除をしている。また、カーペット交換やカーテン交換も実施している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等、出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜や果物にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や、利用者様の様子を見ながら、その都度工夫し対応している。廊下にソファを置き、一人で静かに過ごせる場所も作っている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた、家具や小物を持ち込んでいる方もいる。家族からの写真や絵はがきを飾ったり、自分好みにされている。	◎			○	居室には、ベッドや布団、エアコンが備え付けられている。ベッドなどの家具は、利用者が過ごしやすように配置するほか、職員を呼べるようにタンパリンを置く居室もあるなど、利用者の身体状況等に合わせた環境を整えている。また、馴染みのものを持ち込むことも可能で、衣装ケースや家族写真、書道の作品を飾るなど、居心地のよい空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには、日めくりカレンダーを作り、利用者様がめくれる様にしている。自室には、表札を作っている。トイレや浴室も分かりやすい様に表示している。				○	居室のドアには、手すき和紙で手作りした表札があるほか、トイレや浴室前にも、利用者が書道で書いた表示をかけるなど、利用者が場所を認識しやすいように工夫している。居室内の衣装ケースの引き出しには、ズボンや下着等のラベルを貼って、利用者自身で衣服を取り出せるように配慮している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	テーブル上やカウンターに、季節の花を生けたり、壁には、季節の張り絵等を毎月飾っている。読書が好きな方は、園芸や好みの本、新聞をいつでも読める様に置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は、オンラインの勉強会へ定期的に参加し、鍵を掛けることの弊害を理解している。玄関は、日中施錠せず、防犯のため17時30分から6時30分まで施錠している。居室の窓は転落防止のため、夜間のみ20cm程度までしか開かないようにしている。外出願望のある利用者には、職員が付き添って事業所周辺を散歩するなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族もいない。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでもすぐ確認が出来る様にしている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は、生活記録に残している。職員にも引き継いでいる。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係を築いている。日中は兼務の看護師に相談している。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望する、かかりつけ医や医療機関で受診ができる様に支援している。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月1回、連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続希望される場合、ご家族様が受診介助出来ない場合は、職員がお連れしている。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は、結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は、受診前後に、ご家族様に連絡・報告している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や、介護状態について、看護要約サマリーを作成し、病院に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携を密にして、情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月3回当ホームに、西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時に主治医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	◎	個人カルテを作成し、服用している薬の説明分を読み理解している。また、生活記録に残し、家族・主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時、職員2人で声を出しダブルチェックしている。服用後も飲ませ忘れがないか、薬箱のチェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や、日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと、連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時で最善の方針を共有している。				状態が悪化した場合には病院を受診し、利用者や家族、医師、管理者を交えて話し合い、今後の方針を決定している。話し合った内容は、管理者から職員に伝達して共有している。事業所での看取りを希望する利用者や家族が多い。事業所では医師や看護師、管理者といつでも連絡がとれる体制が整っており、利用者や家族、職員の安心感につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時で最善の方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者・職員交えて、等ホームでどこまで支援が出来るか話合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来る事、出来ない事については、その時・その時で説明し、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に、連携病院の主治医等と連携して、チームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しい様であれば、住み替えの提案も相談の上していく。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いの期限等も出来る限り考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で、随時学んでいる。コロナ過で研修会や講習会には参加できていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会で繰り返し手順を確認している。発生した時に、すみやかに処理出来るように、道具一式を揃えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市報やインターネットを通じて、最新情報を入手している。グループ内の市民病院の患者発生情報等も、情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時等、外に出た時は必ず手洗い・消毒体温測定・うがいをしている。来客者にもアルコール消毒・体温測定してもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ過で面会は出来ていないが、月1回に日常生活報告書にて報告している。また電話時に利用者様と変わり会話してもらっている。				感染症対策のため、家族が参加できる行事の実施はできていないが、管理者は、「感染症等の状況を踏まえながら、家族が参加できる花見等の行事を実施していきたい」と考えている。運営推進会議は、集合形式で実施しており、行事や運営上の事について参加メンバーに報告したり、参加した家族同士の交流が図られたりしている。また、月1回日常生活報告書に、食事や入浴、排泄、健康状態等を記載して家族に送付し、利用者の生活の様子等を知らせている。さらに、利用者ごとの担当職員が異動する場合には、家族へ電話連絡して伝えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ過で、外出・外食・面会等が出来ていない。リモート面会は実施している。	△		○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という情報誌を、年4回発行しており、行行事に参加した様子を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き、日常の様子・体調等について報告している。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	コロナ過で面会は出来ていないが、電話で家族様と話しをし、認知症への理解を得られる様になっている。出来ていた事が、出来なくなったり難しくなってきた事も逐一報告している。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	コロナ過で運営推進会議もできていないが、資料送付をして理解・協力を得られる様にしている。	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	利用者様、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明している。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リモート面会時や、電話での会話で明るく感じの良い話し方を心がけている。ご家族様の趣味の事をお聞きしたり、話やすい雰囲気を作っている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に、契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて、具体的に説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、家族様と相談し、納得していただいている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。		◎		法人・事業所として自治会には加入していないが、自治会員に向けて定期的に広報誌を送付している。野菜や乳製品は、地域の業者から配達してもらうほか、近隣の美容院を利用するなど、地域とのつながりが継続できるよう努めている。管理者は「感染症等の状況を踏まえながら、地域住民に事業所で生育しているバラや藤棚を見に来てもらったり、ボランティアの受け入れなどを行っていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が、地域にも浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてくれている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の薔薇や藤見学を再開したい。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の薔薇や藤見学を再開したい。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で、ボランティアの訪問も中止しているが、コロナが収束すれば、ボランティアの歌謡ショーや日本舞踊、楽器演奏のショーを再開する予定にしている。訪問はないが、飾りや小物は送られている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ過で、訪問等は中止にしているが、収束すれば消防署来訪の心肺蘇生法講習や火災・地震対策予防講習等を再開する予定である。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブ、民生委員等の参加を得て、集合形式で実施している。全ての家族に案内文書を送付しているが、3名程度の参加に留まっている。会議では、事業所のサービスの実際や外部評価の取り組み状況等の報告、参加メンバーとの意見交換等を行っている。議事録は全ての家族に送付するとともに、玄関内に置いて来訪者が読めるようにしている。今後は、会議に参加できない家族に対して事前に意見等を聞き取ったり、会議の意義や目的を説明する機会を設けたりするなど、より多くの家族の参加を得て、収集した意見をより良い事業所運営につなげられるよう職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後は、資料を運営推進会議にて開示している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷の、運営理念を作成し、職員に周知し理念に基づいたケアに取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	コロナ過で、訪問を中止している。また、運営推進会議も行えていないが、収束すれば、面会時や会議時に以前の様に伝える予定。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	代表者は、事業所に来訪し管理者と意見交換や情報共有をしている。また、法人で実施される管理職会の中で、職員の意見等は管理者から代表者に伝えることができています。コロナ禍前には、定期的に食事会やスポーツ大会を実施して、職員同士の交流を図っていたが、現在は感染症対策のため休止している。休みが取りやすい体制を整えたり、資格取得の助成を行うなど、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。職員への聞き取りでは「子育てと仕事が両立できるよう休みなどを考慮してもらっている」と話を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	出来る限り、希望に添える勤務にしている。夜勤や遅出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	△	コロナ過で、訪問したりされたりが、出来ない状態になっているが、社内での管理職会・施設長会・主任副主任会等で、情報交換している。収束すれば、積極的に講習・研修会等に参加させたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	コロナ過で、親睦会やスポーツ大会等は出来ていないが、面接を行い希望や要望を聞いている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	コロナ過で、外部の講習や研修会には参加できていないが、ユニット会で身体拘束や虐待防止について、勉強している。また、各自が文献やインターネットで検索し勉強し理解している。	/	/	○	3か月に1回、虐待防止をテーマにした勉強会を実施して、職員の理解を深めている。不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合ったり、管理者から注意喚起をしたりして、該当職員の気づきを促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りをしている。日々の体調やケアについて話し合いふりかえっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラについての調査をしている。日常でも、社員の態度や表情も観察している。事務所で個別に談話する事もある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在では、その様な要望はないが、今後あっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら、理解を図っていく。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	ユニット会の勉強会で理解を深めている。家族の状況を踏まえ、情報提供や相談にのっている。ご家族様が遠方の方等は、代理で市役所へ書類手続きに行った事もある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	◎	家族様の兄弟間で、司法書士が間に入っている方もいるので、いつでも連絡出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員に通知しているが、新しい職員はまだ完全に把握しきれていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	コロナ過で、消防訓練は年2回行っているが、心肺蘇生、AED取り扱い講習は、感染予防の為、出来ていない。文献やインターネット等で学習はしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度、職員で話し合い、対応方法や注意する点を申し送り、事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間常に連絡が取れる体制に、連絡があれば、迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの、問い合わせや要望があれば、管理者に報告相談し、対応している。転倒し入院等になれば市の長寿介護課に、文書で報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情は4年程ないが、問い合わせや要望は、管理者が職員と話し合い答えている。疑問や質問にたいしても、細かく答えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、事務所で1対1でゆっくりとお話を聞いている。	◎		◎	利用者には、日々の生活の中で、意見等を聞き取っている。家族には、管理者から面会等の来訪時に声かけをするなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会に来られない家族には、月1回程度は電話連絡をして利用者の様子を伝えたり、意見交換をしたりしている。また、管理者は年2回、職員との個別面談を実施して、意見や提案を聞き、利用者への支援等に反映している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、電話時にゆっくりとお話を聞いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝、各ユニットの利用者様に、挨拶廻りしており、その際に、職員の意見や要望も聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に2回、面接を行っている。その他にも、普段から職員の話聞く、機会を持っており、利用者様の為にどうすべきか、話合っている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の対象でない年も、管理者・職員で自己評価に取り組み、書類として残している。				前回の外部評価の評価結果等は、書面開催した運営推進会議の資料の中で家族等に報告している。現在、会議が集合形式で実施できるようになったため、今回の外部評価の受審後には、会議の中で評価結果や目標達成計画、目標の達成状況等を報告し、意見を収集できるように職員間で検討することを期待したい。
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、管理者・職員で話し合い、目標達成計画を作成し、ユニット会で職員に周知し、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで、様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。				事業所では年2回、夜間や日中を想定した避難訓練を実施して災害に備えている。今後は、地域の消防署の協力を得て訓練を実施し、必要な助言等を受けたり、地域で行われる訓練に参加協力したりするなど、災害支援体制の強化に向けて職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間の時間帯を想定し、訓練しているが、2人体制・1人体制での訓練は出来ていない。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備・消火器の点検は、専門業者に依頼、規定どおり点検している。パンや水等も消費期限までに、点検交換している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ過で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	△	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ過で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ過で、会合はできないが、広報誌「あたご」を発行している。介護相談員や老人クラブ会長、民生委員に広報誌を郵送している。				地域住民等からの入居相談があった際には、快く対応している。以前は、中学生の体験学習を受け入れていたが、現在は感染症対策のため休止している。今後は、感染症等の状況を踏まえながら、体験学習の受け入れを再開したり、地域行事への参加協力を通して認知症の啓発活動を実施したりするなど、地域のケア拠点としての活動に向けて職員間で検討することを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	コロナ過で、見学は出来ないが、事務所でパソコンで施設紹介している。また入居相談も受けている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ過で、施設内訪問は中止している。また、訪問も感染予防の為、出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ過で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開予定				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ過で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開また、地域のイベントにも参加したい。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム 丹原の郷
(ユニット名)	上町
記入者(管理者)	
氏 名	濱田 寿男
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 26 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 1、入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供します。 2、一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来るように努めます。 3、主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るように援助します。	「前回の目標達成達成計画で取り組んだ事・その結果」 コロナ過で、会合や会議・集会が中止になっていたが、令和6年11月より会議等を開催する事が出来るようになった。しかし年末・年始にかけてインフルエンザ感染のクラスターになり、家族会が中止になった。インフルエンザ感染の警報が解除されれば、地域の防災訓練や運動会・集会に参加したいと思っている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は市郊外の田園地帯に立地しており、事業所の庭や建物の周りには、藤やバラなどの季節の花が植えられ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じることができる。感染症対策のため、地域住民と交流する機会は減っているものの、散歩時には挨拶や会話を交わしたり、サクランボを差し入れてもらったりするなど、できる範囲で交流を図っている。また、外出行事の充実や併設するデイサービスの行事へ参加を検討するなど、利用者に楽しんで生活してもらえるように努めている。長年勤務している職員が多く、お互いをフォローし合う良好な関係性が築けている。家族には月1回、日常生活報告書に利用者の生活状況等を記載して送付するほか、電話連絡する機会を多く設けて意見交換等を行い、家族との信頼関係を築いている。感染症対策を徐々に緩和し、現在は居室内での面会を可能としており、利用者や家族に喜ばれている。事業所は、開設から20年以上経過しているが、清掃や整理整頓が行き届いており、快適に過ごせる空間づくりが行われている。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の会話の中から希望を聞き、職員で話合っている。	◎		○	職員は、日々の生活の中で利用者から希望等を聞き取り、生活記録や申し送りノートに記載して、職員間で情報共有している。利用者の希望に応じて、カレーライスやインスタントラーメンなどを食事に提供することもある。利用者から外食をしたいと希望されることもあるが、感染症対策のため、現在は実施できていない。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立って、意見を出し合う様にしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の電話時に本人の好きな事や、希望・意向を聞き出している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたい物や、やりたい事等日常生活記録に記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起こらないように、職員間で良く話合っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。			◎	管理者等は、入居時に利用者や家族と面談を行い、生活歴や暮らし方等の希望を聞き取っている。また、成年後見人や以前利用していた介護サービス事業所の担当者、介護支援専門員からもサービス利用の経過等の情報を収集している。把握した情報は、アセスメントシートに記入して職員間で共有している。さらに、アセスメントシートは3か月に1回見直しをするほか、新たな情報を把握した際には追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事・できない事シートを活用し、状態が変わればその都度話合っている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活の中での様子を記録し、職員間で引き継ぎ情報共有している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話合っている。必要に応じて、その日の出勤者でも話合っている。			◎	各ユニットで毎月ユニット会を実施し、全ての利用者の課題解決等に向けた話し合いをしている。ユニット会の実施前には、家族や主治医から意見を聞いて、支援に反映している。管理者は、全ユニットのユニット会に参加し、適宜必要な指示やアドバイスをしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ユニット会で職員間で検討している。電話時には主介護者様にも適宜相談している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話合って介護計画を作成している。				介護計画の作成時に、利用者や家族から希望を聞き取っているが、希望が出されることは少ない。毎月のユニット会や3か月に1回のケアカンファレンスの中で、管理者や計画作成担当者、職員が意見を出し合い、利用者本位の介護計画が作成できるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	3か月に1回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で、介護計画を作成している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し身体状況、食事量、水分量、排泄等の記録をして状況に応じている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	コロナ過で会議は出来ていないが、電話で運営推進会議メンバーの方と意見交換をしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを3か月に1度見直している。状態が変わればその都度見直している。	/	/	◎	介護計画やケアカンファレンス記録、モニタリングシートを利用者ごとにファイリングして、職員がいつでも内容を確認できるようにしている。生活記録には、利用者ごとに設定した目標に対する支援状況を記載して、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記載し、介護計画にそって日々の支援を行っている。実行できた事項を確認している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直しを行っている。状態変化がなければ6か月後に作成している。	/	/	◎	介護計画は、利用者の状況等に応じて3か月から6か月に1回見直しをしている。状況に変化がない場合でも、毎月のユニット会の中で全ての利用者の現状を確認して、モニタリングシートに記載している。大きな状況変化が生じた場合には、家族に連絡するとともに、当日の出勤職員や管理者等で話し合って対応し、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りで、一人ひとり利用者の変化等について話合っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をし適宜見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	◎	毎月のユニット会の中で、利用者の課題解決やより良いサービス提供に向けた話し合いをしている。ユニット会は、なるべく多くの職員が参加できるように17時10分からと時間を固定して実施しており、原則夜勤者と遅出職員以外の全職員が参加している。ユニット会に参加できなかった職員には、議事録を確認してもらうほか、管理者から口頭で説明し、確実に情報が伝達できるよう配慮している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	リーダーが中心となり、若い職員や新入社員が委縮しやすいような雰囲気になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席している。急用等で出席出来なかった職員は、議事録を熟読し内容を把握している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	◎	申し送りノート、ユニット会議事録、生活記録等に記入し、家族と連絡・相談した事等も、職員全体に伝わるようにしている。	◎	/	◎	毎日、朝と夕方に、申し送りノートを活用して申し送りを実施している。申し送りノートには、重要な情報は赤字や赤枠で記載するなど、職員が分かりやすいように工夫をしている。また、職員は出勤時に申し送りノートを確認し、確認後サインをしている。以前は、全ユニットの職員が集まって申し送りをしていたが、現在は感染症対策のため、ユニットごとで申し送りを実施している。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中で、その人の思いをくみ取っている。	/	/	/	職員は、利用者が着る衣服や、やりたいことなどを自己決定できるよう、声かけをしているが、高齢化や重度化のため、選ぶことが難しい利用者も多くなる。職員が買い物に同行して、好みの化粧品を選んでももらったり、家族と馴染みの美容院に出かけたりするなど、利用者の希望を実現できるよう配慮している。また、昔の歌を歌ったり、好きなテレビ番組を見てもらったりするなど、日々の生活を楽しんでもらえるように支援している。見たいテレビ番組が利用者間で分かれた場合には、居室にテレビを置いて見てもらうなどの対応をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	衣服やパジャマ等をどちらがいいか選んでもらっている。家事手伝い等何がしたいか選んでもらっている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きな事や、出来そうな事を勧めたり、声掛けし、雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者様が、何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。（人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等）	◎	常に、利用者様は人生の先輩だという事をわすれずに、敬いの心を持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	◎	職員は、人権や尊厳をテーマにしたオンライン研修に参加して学んでいる。管理者は、研修に参加した職員に対し研修の感想を聞いたり、必要な助言等を行ったりして職員の理解を深めている。また、基本的に利用者の居室のドアは閉めており、ノックや声かけをしてから居室に入るなど、利用者が居室にいない場合でもプライバシーに配慮している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は、必ず声掛けした後に入室するようにしている。訪室する際は必ずノックしている居室にいない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	会社外に出れば、社内の出来事は話していない。職員にも周知徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等できる事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらった場合は、感謝の気持ちを伝えている。				利用者は、洗濯物畳みを協力しながら行うなど、日常的に助け合いや支え合う場面が見られ、職員もさりげなく支援をしている。言い合いなどのトラブルが起こりそうな場合には、職員が仲介して話を聞いたり、席替えをしたりするなどの対応をしている。席替えを行う際には、利用者が不安等を感じないように丁寧に説明をしている。また、職員は、日々の生活の中で興味のありそうな話題を提供するなど、利用者が孤独感を感じないように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって生きていく事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、職員が媒体になり、馴染めるように配慮している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している。ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等をしてもらっている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているが、昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ過で外出できていないが、年賀状のやりとりや電話で話たりしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出はできていないが、天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。ホームに咲いている季節の花を見て、春夏秋冬を感じてもらっている。	×	△	○	天気の良い日には、車いすの利用者も一緒に事業所周辺を散歩して、外気を感じてもらえるよう支援している。散歩時には、近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、住民宅で菊の花を見せてもらったりするなどの交流を図っている。季節ごとの外出行事については、感染症対策により休止しているが、管理者は「感染症等の状況を踏まえながら、外出行事を再開していきたい」と考えている。利用者家族等アンケート結果では、外出支援の現状が十分に理解されていないところもあるため、運営推進会議や広報誌を活用して状況報告するなど、理解してもらえるような取り組みに期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過の前は、菊の花や季節の花を見に、地域の方の家にも訪問していたが、現在は出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話合ったり、日々の申し送りで伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアをしている。				利用者の心身状況等は、できることできないことシートに記載するとともに、6か月に1回シートの見直しを行い、職員間で共有している。更衣等の日常生活動作は、時間がかかってもなるべく利用者自身にしてみらい、職員は利用者ができない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操、口腔体操を行っている。拒否される方もいるが、気長に声掛けしている。出来ない方は職員が介助している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は、自力でしてもらっている。危険な時は介助している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来る様に支援している。				洗濯物畳みや食材の下ごしらえなど、利用者の得意なことを活かした役割を担ってもらっている。また、歌やぬり絵など、利用者が好きなことをして過ごせるよう支援をしている。利用者が、パンの訪問販売で好きなパンを買ったり、立ち寄った近隣住民と交流をしたりするなど、日常生活の中で楽しみごとがつけられるような取り組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来る事を、日常の会話やふれあいによって、職員が見つけ出し、楽しみを持って生活してもらっている。	◎	◎	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分の選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。				衣服の汚れが見られた時には、職員からさりげなく声かけをし、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。化粧や服装にこだわりのある利用者があり、職員が同行して好みの化粧品を買いに行くなど、本人らしく過ごせるように支援している。定期的に訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えてもらう利用者や、家族と一緒に馴染みの美容院へ出かける利用者もいる。重度の利用者には、家族に好みの衣服を用意してもらったり、好みの色等を聞いた上で事業所で衣服を購入したりするなどの支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別にヘアブラシを用意している。散髪はホームに来てもらって、好みの髪型にされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	起床後には、一緒に鏡を見ながら、髪型を整えたりその人らしくいられる様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	利用者様のブライドを大切に、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにてボランティア（有償）の方に、散髪してもらっている。本人・家族もそれを望んでいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装に気をつけている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。				昼食の副食のみ、外部の業者に調理等を委託し、事業所に届いたパウチを湯煎して利用者に提供している。朝食と夕食は、職員が調理や炊飯、盛り付けをし、利用者には、食材の下ごしらえや台拭きなどを手伝ってもらっている。献立は、利用者から希望を聞きながら、ユニット会を活用して、献立や食事形態等を職員間で話し合っている。菜の花や筍等の旬の食材を取り入れて、利用者に季節を感じてもらえるように工夫し、アレルギーや苦手な食材は入居時に確認し、代替食を提供するようにしている。食材の買い出しは、週2回職員が行うほか、米やじゃがいも、玉ねぎ、調味料は地域の業者に配達してもらっている。また、茶碗や箸等は、使い慣れたものを持参してもらっているが、必要に応じて事業所で用意した使いやすいものを使用している。食事介助が必要な利用者が半数程度いるため、職員は、見守りや介助に専念しており、利用者と別々に食事をしている。食事の時間には、重度の利用者もリビングに出て、調理の様子や音、匂いなどを感じてもらうことができおり、食事中は、優しい曲調の音楽をかけるなど、利用者がゆったりと食事できるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしてもらっている。中には出来ない人もいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	声掛けにて、盛り付け等は一部の利用者様にしてもらっており。残存能力維持・達成感に繋げている。中には出来なくなっている人もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	牛乳やコーヒーが苦手なご利用者様には、ジュースや別の飲み物を提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬の物を取り入れ、季節感を味わっていただき、利用者様も喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等）	○	利用者様の状態や体調により、刻みやミキサー食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器にしたり、工夫して盛り付けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ち込みで、使い慣れた物を使用している。床に落として危険な方は、プラスチック製の食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と会話を楽しみながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等は、さりげなくサポートしている。コロナウイルス感染予防の為、一緒には食べていない。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて、皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚が刺激され、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量、しっかりと確保できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には介助にて摂取してもらっている。摂取量に合わせ、高カロリー食品や飲料を摂取してもらっている、利用者様もいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合い、その都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気を付けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者様、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。				口腔ケアは毎食後に実施しており、職員は全ての利用者の口腔内の健康状態を確認している。義歯は、職員が預かって洗浄している。口腔内に異常が見られた場合には、医師に相談した上で、利用者や家族が希望する近隣の歯科医院を受診している。歯科医院を受診する際、家族の送迎が難しい場合には、職員が同行支援をしている。また、職員は口腔ケアのオンライン研修に参加しており、口腔ケアの重要性等を学んでいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も、口腔ケア時に確認している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に、義歯の洗浄の仕方についてや口腔ケアの仕方について教えていただいている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る方は自分でしてもらっている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	◎	自力で出来る方は自分でしている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄が出来る様に支援している。				事業所では、利用者がトイレで排泄することを基本に支援している。利用者の排泄状況は、排泄チェック表に記録しており、利用者ごとの排泄パターンに応じてトイレ誘導等をしており、現在2名の利用者が布パンツで過ごすことができています。紙おむつを使用する利用者にも、トイレで排泄できるよう支援していたが、座位保持が困難になったため、現在はベッド上でおむつ交換をしている。利用者が身体状況等に合った適切な排泄用品が使用できるようユニット会の中で話し合うほか、必要に応じておむつの取扱業者にも相談している。現在、全利用者のうち半数以上が下剤を服用しているが、食物繊維の多い食材を食事に取り入れたり、ヨーグルトなどの乳製品の摂取を促したりするなど、なるべく服薬に頼らずに便秘が解消できるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘による様々な弊害を理解し、廊下歩行や散歩・体操をさせる。出ない場合は緩下剤を服用している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握して、変化があれば、ユニット会で議題に上げて、検討・見直しを常に行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、職員間で情報を共有し、その都度、看護師も交えて検討し、対策を実施している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は、声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様は、自分で選択してもらっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	利用者様の状態に合った、紙オムツ・紙パンツ・パッドを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	◎	朝食時のヨーグルトバナナ・スタミン等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行、手足の体操の運動にも取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	高齢で体力的に毎日入れない方は、2～3日に1回の方もいる。湯舟を跨げない方や転倒の危険性のある方はシャワー浴している。	◎		○	利用者は、週2回午後に入浴することができる。湯船に浸かる時間や湯の温度は、可能な限り利用者の希望に合わせるようにしているが、身体状況等を考慮しながら、必要に応じて主治医に相談して助言を得ている。身体機能が低下し、浴槽を跨ぐことが難しい利用者には、家族に相談した上で、シャワー浴を実施して清潔保持に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、家族の事を話したり、談笑されながら入浴している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りの入浴動作の自立を促している。湯舟を跨げない方や転倒の危険性がある方はシャワー浴している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫する事で入浴出来ている。必要に応じて、男女職員を交代し、羞恥心に配慮している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に気を配っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを観てから入室される方もいるし、個々の睡眠パターンを把握している。				半数程度の利用者は眠剤を服用しているが、散歩やレクリエーションで日中の活動量を増やすなど、なるべく服薬に頼らずに夜間良眠できるよう支援している。夜間眠れなくなった利用者には、リビングで職員と話をしたり、ホットミルクを提供して一緒にテレビを見たりして、眠たくなったところに居室へ誘導するなどの対応をしている。不眠が続くなどがあれば、医師に相談し、指示や助言を受けることができています。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、日中の居室での仮眠時間を減らしたり等して、夜間の睡眠が取れる様に支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	外気浴に行ったり、工作、塗り絵、手足の体操をしたり、できるだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。一人でいたい方は廊下のソファーに座られている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。持っていない方は電話を取りつぎ談話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、音信がとれる様に支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、良く話されている。家族様からもよく、電話や手紙や季節の絵を描かれたハガキが届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ過で外出していない。買い物も行けていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度、本人様・家族様と相談し、意向に添った支援に努めている。病院の受診介助等、柔軟に対応してる。	◎		○	通院介助を事業所に対応するほか、好みの衣服や化粧品の買い物に同行するなど、利用者や家族から出された要望には可能な範囲で柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に、春夏秋冬の色とりどりの草花いつでも見に来ていただける様にしているが、コロナ過で現在は出入りはしていない。	◎	◎	◎	玄関前や建物周辺には、季節の花が色とりどりに植えられ、職員が草引きなどの世話をしており、明るく気軽に入りやすい雰囲気を感じられる。バラのアーチや藤棚もあり、コロナ禍前には地域住民が見学に来ることもあった。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	◎	リビングの壁には、季節ごとの切り絵や飾りを飾っている。花を生けたり、廊下には、お誕生日会や季節の行事の写真を張っている。居室には送付されてきた、家族やお孫さんの写真を飾ったりしている。	◎	◎	◎	玄関には、季節の花の鉢植えや利用者の手作りの作品が飾られているほか、いすが3つ置かれており、利用者や来訪者が座って休憩できるようにしている。リビングの壁面には、職員と一緒に作成した梅やひな祭りの飾りつけがされており、利用者が季節を感じながら生活できるように工夫している。広々とした廊下には、ソファが置かれていたり、リビングに小上がりの置スペースを設置したりするなど、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。建物内は、清掃や整理整頓が行き届いており、快適に過ごせる環境づくりが行われている。また、建物内の清潔を保つため、職員で構成された環境委員によって、定期的に建物内の清掃状況等を確認している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に、細目に掃除をしている。また、カーペット交換やカーテン交換も実施している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等、出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜や果物にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や、利用者様の様子を見ながら、その都度工夫し対応している。廊下にソファを置き、一人で静かに過ごせる場所も作っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた、家具や小物を持ち込んでいる方もいる。家族からの写真や絵はがきを飾ったり、自分好みにされている。	◎		○	居室には、ベッドや布団、エアコンが備え付けられている。ベッドなどの家具は、利用者が過ごしやすように配置するほか、職員を呼べるようにタンパリンを置く居室もあるなど、利用者の身体状況等に合わせた環境を整えている。また、馴染みのものを持ち込むことも可能で、衣装ケースや家族写真、書道の作品を飾るなど、居心地のよい空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには、日めくりカレンダーを作り、利用者様がめくれる様にしている。自室には、表札を作っている。トイレや浴室も分かりやすい様に表示している。			○	居室のドアには、手すき和紙で手作りした表札があるほか、トイレや浴室前にも、利用者が書道で書いた表示をかけるなど、利用者が場所を認識しやすいように工夫している。居室内の衣装ケースの引き出しには、ズボンや下着等のラベルを貼って、利用者自身で衣服を取り出せるように配慮している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	テーブル上やカウンターに、季節の花を生けたり、壁には、季節の張り絵等を毎月飾っている。読書が好きな方は、園芸や好みの本、新聞をいつでも読める様に置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は、オンラインの勉強会へ定期的に参加し、鍵を掛けることの弊害を理解している。玄関は、日中施錠せず、防犯のため17時30分から6時30分まで施錠している。居室の窓は転落防止のため、夜間のみ20cm程度までしか開かないようにしている。外出願望のある利用者には、職員が付き添って事業所周辺を散歩するなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族もいない。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでもすぐ確認が出来る様にしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は、生活記録に残している。職員にも引き継いでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係を築いている日中は兼務の看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望する、かかりつけ医や医療機関で受診ができる様に支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月1回、連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続希望される場合、ご家族様が受診介助出来ない場合は、職員がお連れしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は、結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は、受診前後に、ご家族様に連絡・報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や、介護状態について、看護要約サマリーを作成し、病院に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携を密にして、情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月3回当ホームに、西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時に主治医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	◎	個人カルテを作成し、服用している薬の説明分を読み理解している。また、生活記録に残し、家族・主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時、職員2人で声を出しダブルチェックしている。服用後も飲ませ忘れがないか、薬箱のチェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や、日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと、連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時で最善の方針を共有している。				状態が悪化した場合には病院を受診し、利用者や家族、医師、管理者を交えて話し合い、今後の方針を決定している。話し合った内容は、管理者から職員に伝達して共有している。事業所での看取りを希望する利用者や家族が多い。事業所では医師や看護師、管理者といつでも連絡がとれる体制が整っており、利用者や家族、職員の安心感につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時で最善の方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者・職員交えて、等ホームでどこまで支援が出来るか話合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来る事、出来ない事については、その時・その時で説明し、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に、連携病院の主治医等と連携して、チームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しい様であれば、住み替えの提案も相談の上していく。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いの期限等も出来る限り考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で、随時学んでいる。コロナ過で研修会や講習会には参加できていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会で繰り返し手順を確認している。発生した時に、すみやかに処理出来るように、道具一式を揃えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市報やインターネットを通じて、最新情報を入手している。グループ内の市民病院の患者発生情報等も、情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時等、外に出た時は必ず手洗い・消毒体温測定・うがいをしている。来客者にもアルコール消毒・体温測定してもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ過で面会は出来ていないが、月1回に日常生活報告書にて報告している。また電話時に利用者様と変わり会話してもらっている。				感染症対策のため、家族が参加できる行事の実施はできていないが、管理者は、「感染症等の状況を踏まえながら、家族が参加できる花見等の行事を実施していきたい」と考えている。運営推進会議は、集合形式で実施しており、行事や運営上の事について参加メンバーに報告したり、参加した家族同士の交流が図られたりしている。また、月1回日常生活報告書に、食事や入浴、排泄、健康状態等を記載して家族に送付し、利用者の生活の様子等を知らせている。さらに、利用者ごとの担当職員が異動する場合には、家族へ電話連絡して伝えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ過で、外出・外食・面会等が出来ていない。リモート面会は実施している。	△		○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という情報誌を、年4回発行しており、行行事に参加した様子を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き、日常の様子・体調等について報告している。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	コロナ過で面会は出来ていないが、電話で家族様と話しをし、認知症への理解を得られる様になっている。出来ていた事が、出来なくなったり難しくなってきた事も逐一報告している。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	コロナ過で運営推進会議もできていないが、資料送付をして理解・協力を得られる様にしている。	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	利用者様、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明している。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リモート面会時や、電話での会話で明るく感じの良い話し方を心がけている。ご家族様の趣味の事をお聞きしたり、話やすい雰囲気を作っている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に、契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて、具体的に説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、家族様と相談し、納得していただいている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。		◎		法人・事業所として自治会には加入していないが、自治会員に向けて定期的に広報誌を送付している。野菜や乳製品は、地域の業者から配達してもらうほか、近隣の美容院を利用するなど、地域とのつながりが継続できるよう努めている。管理者は「感染症等の状況を踏まえながら、地域住民に事業所で生育しているバラや藤棚を見に来てもらったり、ボランティアの受け入れなどを行っていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が、地域にも浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてくれている。				
		d	地域の人気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の薔薇や藤見学を再開したい。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の薔薇や藤見学を再開したい。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で、ボランティアの訪問も中止しているが、コロナが収束すれば、ボランティアの歌謡ショーや日本舞踊、楽器演奏のショーを再開する予定にしている。訪問はないが、飾りや小物は送ってられている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ過で、訪問等は中止にしているが、収束すれば消防署来訪の心肺蘇生法講習や火災・地震対策予防講習等を再開する予定である。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブ、民生委員等の参加を得て、集合形式で実施している。全ての家族に案内文書を送付しているが、3名程度の参加に留まっている。会議では、事業所のサービスの実際や外部評価の取り組み状況等の報告、参加メンバーとの意見交換等を行っている。議事録は全ての家族に送付するとともに、玄関内に置いて来訪者が読めるようにしている。今後は、会議に参加できない家族に対して事前に意見等を聞き取ったり、会議の意義や目的を説明する機会を設けたりするなど、より多くの家族の参加を得て、収集した意見をより良い事業所運営につなげられるよう職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後は、資料を運営推進会議にて開示している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行えていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷の、運営理念を作成し、職員に周知し理念に基づいたケアに取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	コロナ過で、訪問を中止している。また、運営推進会議も行えていないが、収束すれば、面会時や会議時に以前の様に伝える予定。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	代表者は、事業所に来訪し管理者と意見交換や情報共有をしている。また、法人で実施される管理職会の中で、職員の意見等は管理者から代表者に伝えることができています。コロナ禍前には、定期的に食事会やスポーツ大会を実施して、職員同士の交流を図っていたが、現在は感染症対策のため休止している。休みが取りやすい体制を整えたり、資格取得の助成を行うなど、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。職員への聞き取りでは「子育てと仕事が両立できるよう休みなどを考慮してもらっている」と話を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	出来る限り、希望に添える勤務にしている。夜勤や遅出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ過で、訪問したりされたりが、出来ない状態になっているが、社内での管理職会・施設長会・主任副主任会等で、情報交換している。収束すれば、積極的に講習・研修会等に参加させたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	コロナ過で、親睦会やスポーツ大会等は出来ていないが、面接を行い希望や要望を聞いている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	コロナ過で、外部の講習や研修会には参加できていないが、ユニット会で身体拘束や虐待防止について、勉強している。また、各自が文献やインターネットで検索し勉強し理解している。	/	/	○	3か月に1回、虐待防止をテーマにした勉強会を実施して、職員の理解を深めている。不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合ったり、管理者から注意喚起をしたりして、該当職員の気づきを促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りをしている。日々の体調やケアについて話し合いふりかえっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラについての調査をしている。日常でも、社員の態度や表情も観察している。事務所で個別に談話する事もある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在では、そのような要望はないが、今後あっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら、理解を図っていく。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	ユニット会の勉強会で理解を深めている。家族の状況を踏まえ、情報提供や相談にのっている。ご家族様が遠方の方等は、代理で市役所へ書類手続きに行った事もある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	家族様の兄弟間で、司法書士が間に入っている方もいるので、いつでも連絡出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員に通知しているが、新しい職員はまだ完全に把握しきれていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	コロナ過で、消防訓練は年2回行っているが、心肺蘇生、AED取り扱い講習は、感染予防の為、出来ていない。文献やインターネット等で学習はしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度、職員で話し合い、対応方法や注意する点を申し送り、事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間常に連絡が取れる体制に、連絡があれば、迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの、問い合わせや要望があれば、管理者に報告相談し、対応している。転倒し入院等になれば市の長寿介護課に、文書で報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情は4年程ないが、問い合わせや要望は、管理者が職員と話し合い答えている。疑問や質問にたいしても、細かく答えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、事務所で1対1でゆっくりとお話を聞いている。	◎		◎	利用者には、日々の生活の中で、意見等を聞き取っている。家族には、管理者から面会等の来訪時に声かけをするなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会に来られない家族には、月1回程度は電話連絡をして利用者の様子を伝えたり、意見交換をしたりしている。また、管理者は年2回、職員との個別面談を実施して、意見や提案を聞き、利用者への支援等に反映している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、電話時にゆっくりとお話を聞いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝、各ユニットの利用者様に、挨拶廻りしており、その際に、職員の意見や要望も聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に2回、面接を行っている。その他にも、普段から職員の話聞く、機会を持っており、利用者様の為にどうすべきか、話合っている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の対象でない年も、管理者・職員で自己評価に取り組み、書類として残している。				前回の外部評価の評価結果等は、書面開催した運営推進会議の資料の中で家族等に報告している。現在、会議が集合形式で実施できるようになったため、今回の外部評価の受審後には、会議の中で評価結果や目標達成計画、目標の達成状況等を報告し、意見を収集できるように職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、管理者・職員で話し合い、目標達成計画を作成し、ユニット会で職員に周知し、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	ジェイコムグループで、様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。				事業所では年2回、夜間や日中を想定した避難訓練を実施して災害に備えている。今後は、地域の消防署の協力を得て訓練を実施し、必要な助言等を受けたり、地域で行われる訓練に参加協力したりするなど、災害支援体制の強化に向けて職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間の時間帯を想定し、訓練しているが、2人体制・1人体制での訓練は出来ていない。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備・消火器の点検は、専門業者に依頼、規定どおり点検している。パンや水等も消費期限までに、点検交換している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ過で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	△	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ過で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	コロナ過で、会合はできないが、広報誌「あたご」を発行している。介護相談員や老人クラブ会長、民生委員に広報誌を郵送している。				地域住民等からの入居相談があった際には、快く対応している。以前は、中学生の体験学習を受け入れていたが、現在は感染症対策のため休止している。今後は、感染症等の状況を踏まえながら、体験学習の受け入れを再開したり、地域行事への参加協力を通して認知症の啓発活動を実施したりするなど、地域のケア拠点としての活動に向けて職員間で検討することを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	コロナ過で、見学は出来ないが、事務所でパソコンで施設紹介している。また入居相談も受けている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	コロナ過で、施設内訪問は中止している。また、訪問も感染予防の為、出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ過で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開予定				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	コロナ過で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開また、地域のイベントにも参加したい。			○	